

トピックス

栃木県元気な農業コンクールの受賞組織が決定しました

元気な農業農村づくりに資するため、栃木県、栃木県農業協同組合中央会、(株)下野新聞社の主催により実施した「第4回栃木県元気な農業コンクール」の受賞組織が決定しました。

いきいき農村部門（農村環境保全向上の部）には、農地・水・環境保全向上対策に取り組む13組織から応募があり、いずれの組織も地域における話し合いの下、各々の特性を活かした活動を展開しており、意欲や熱意が伝わるものでしたが、以下の組織が栄えある賞に輝きました。

◎とちぎ元気大賞（関東農政局長賞・栃木県知事賞）

三区町環境保全隊（那須塩原市）

- ・那須疏水などの農業用水路の歴史や役割の理解促進を図る田園ウォークや学校との連携に取り組むとともに、環境に配慮した農業生産に積極的に取り組んでいます。
- ・また、混住化が進行する中、多くの地域住民の参画を得て、幅広い農村環境向上活動を実施するとともに、住民アンケートによる活動の検証、NPO法人化の勉強会の開催など、将来の活動の充実・継続に向け、積極的に取り組んでいる点が高く評価されました。



地域外の方も参加した「那須疏水&田園ウォーク」



若手農家の会合による話し合い「三区町の未来を考える会」

◎とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

下沢引田農村環境保全の会（鹿沼市）

- ・地元の人材である「ふれあいみどりの村」の構成員（様々な分野の体験指導員）を中心として、「田んぼオーナー」や「山の学校」といった多彩な体験活動を実践するなど、多くの子供達を含む地域住民や都市住民が楽しみながら交流を深めている点が評価されました。



田んぼオーナーによる田植え

大柿の郷をまもる会（栃木市）

- ・遊休農地を活用し、菜の花、ソバ等による景観づくりに取り組み、ナタネ油やソバ粉を学校給食や地元のお祭りに提供するなど、活動の成果を地域に還元しており、地域条件や資源を上手に活用している点が評価されました。



ナタネ油を学校給食へ寄贈

◎特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

原環境保全会（益子町）

- ・ため池周辺の景観づくりについて、企画・デザインから植栽まで真岡北陵高校（農業高校）と連携して取り組んでいる点が評価されました。

白鳥緑と水辺の郷（小山市）

- ・イワダレ草の植栽や水田魚道の設置などに取り組むとともに、環境保全型農業を実施し、地域ブランド米「生井っ子（特裁米）」の商品化を図るなど、環境保全に向けた総合的な取組が評価されました。

◎奨励賞

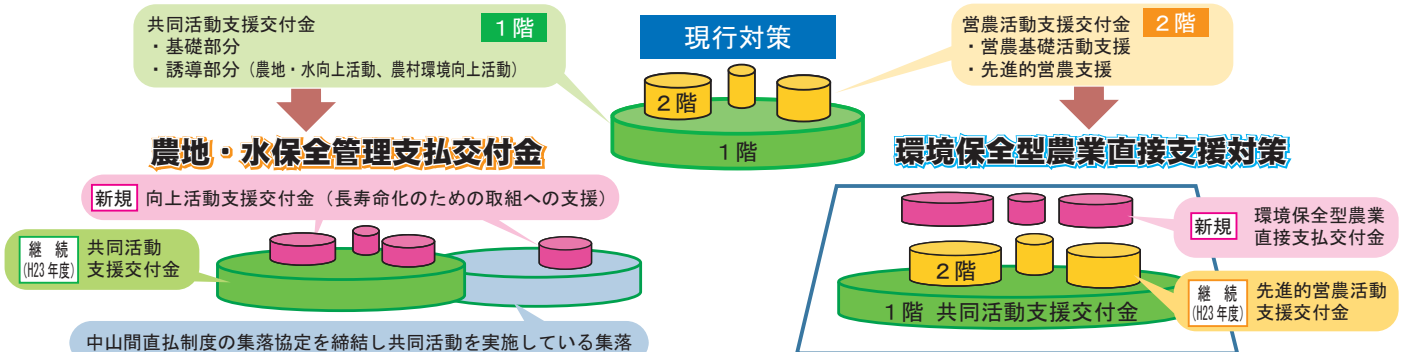
- ・下高北部環境保全会（芳賀町） ・中里毘沙門の郷（小山市） ・仁良川の里保全会（下野市）
- ・喜多まちづくり推進委員会（塩谷町） ・青木一区農地水環境保全対策委員会（那須塩原市） ・稲岡地区環境保全の会（足利市）



お知らせ

平成23年4月から農地・水・環境保全向上対策の制度が変わります

農地・水・環境保全向上対策を見直し、これまでの地域ぐるみの共同活動に加え、老朽化が進む農業用水路等の長寿命化（補修・更新）を支援する向上活動が拡充され、「農地・水保全管理支払交付金」に変わります。また、営農活動は共同活動の実施の有無にかかわらず、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い取組を支援する「環境保全型農業直接支援対策」に変わります（平成23年度までは現行の先進的営農活動支援交付金は継続）。



共同活動支援単価：水田 4,400 円/10a 等、向上活動支援単価：水田 4,400 円/10a 等

先進的営農活動支援単価：水稲 6,000 円/10a 等、環境保全型農業直接支援単価：一律 8,000 円/10a

生きものマップコンテストの受賞組織が決定しました

地域環境に対する住民の意識醸成や保全に向けた取組を促進するとともに、多くの県民の皆様にとちぎの豊かな農村環境を知っていただくため、県協議会の主催により実施した「平成22年度田んぼまわりの生きものマップコンテスト」の受賞組織が決定しました。114組織から応募があり、昨年12月24日（金）に行われた審査会で6作品が受賞作品に選ばれました。また、2月2日（水）～3日（木）には県総合文化センター第2ギャラリーで作品展を開催するとともに、3月9日（水）には小山市立文化センター大ホールで表彰式を行いました。



写真：大久保会長より表彰状と記念品の贈呈
◇鉢形環境保全会

写真は生きものマップコンテスト受賞組織記念撮影
前列左：大久保会長、前列右：水谷審査委員長

最優秀賞 鉢形環境保全会（小山市）

山田沼と田んぼまわりの小さな生き物調査マップ



子供達の生きもの調査時におけるいきいきとした様子やイラスト、感想が素晴らしく、地域の豊かな環境が的確に表現されている点が高く評価されました。

優秀賞 しもやなの里（小山市）

しもやなの里 いきものマップ



地域全体の生きもの調査に取り組んでおり、生きもののイラストも細部まで詳細に描かれている点が評価されました。

優秀賞 あらい自然環境保全会（大田原市）

田んぼの生きもの環境マップ

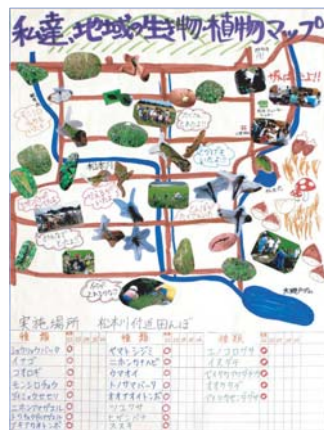


子供達から高齢者まで一緒になって作ったマップであり、共同活動の取組と地域環境との関係にまで踏み込んで作成されている点が評価されました。

審査員特別賞

本郷・松本環境保全組合（益子町）

私産地域の生き物植物マップ



平成19年度からの生息確認状況を記載するとともに、今後も確認状況が記載できる表となっており、生きもの調査の継続性や地域の熱意が伝わってくる点が評価されました。

優秀賞 蕎麦花の郷延島上（小山市）

蕎麦花の郷延島上生きものマップ



色彩豊かに描かれており、子供達の感想も良く、過去4年間（H19～H22）の調査結果をまとめている点が評価されました。

審査員特別賞

岩崎自然環境保全会（日光市）

生き物調査



水田まわりの植物に特化した生きもの調査に取り組んでおり、他組織にない独創的な点が評価されました。

県内102地域が田園風景百選に認定されました

美しく豊かなとちぎの田園風景を百年後の後世に継承するとともに、活力に満ちた地域づくりを促進していくため、栃木県をはじめ多くの企業・団体の方々の連携により実施している「とちぎのふるさと田園風景百選」について、応募353地域の中から102地域が認定されました。

また、百選認定を記念して開催されたシンポジウム（2月2日（水）県総合文化センターメインホール：栃木県など主催）では、102地域を代表して益子町山本の谷中氏（原環境保全会）と山本氏（本郷・松本環境保全組合）が認定証を授与されました。



写真：中央：谷中氏、右：山本氏

当該認定地には、農地・水・環境保全向上対策に取り組む地域が数多く含まれており、活動組織の皆様のごこれまでの取組成果が評価されたものと考えております。この田園風景百選を契機に、多くの方々の参加を得て、なお一層、保全に向けた取組を充実させていきたいと思います。



原地域の棚田

八坂神社祭礼の山車

益子町山本の風景

農地・水・環境保全向上対策グレードアップ推進講座の開催

平成23年3月9日（水）、小山市立文化センター大ホールにて、農地・水・環境保全向上対策グレードアップ推進講座を開催しました。

本講座は、地域自らが将来にわたり充実した活動が行える体制づくりや地域資源の積極的な活用等を促進することを目的に開催したもので、活動組織をはじめ、県・市町関係者など約600名の方が参加しました。



写真：大久保会長より開会挨拶

基調講演では、宇都宮大学農学部教授の水谷正一氏が「私たちは農村の生きものにどう関わったらよいのか」と題し、生物多様性の意義や、人と自然、生きものとの関わり方などについて講演されました。さらに、県協議会から「体制整備構想（案）から成案に向けて」と題して、活動組織の将来目標である体制整備構想の策定に当たっての留意点について説明しました。



写真：水谷教授による基調講演

このほか、生きものマップコンテスト表彰式や、関東農政局農地整備課の大西課長補佐を招いて、農地・水保全管理支払交付金の概要説明を行い、会場を埋めた参加者は熱心に聞き入っていました。